

つくば国際戦略総合特区

「総合特区制度」の概要

総合特区制度 = 新成長戦略を実現するための政策課題解決の突破口

先駆的取組を行う実現可能性の高い区域に国と地域の政策資源を集中

○地域の包括的・戦略的なチャレンジを、オーダーメイドで総合的に支援

○総合特区ごとに設置される「国と地方の協議会」で国と地域の協働プロジェクトとして推進

2つのパターンの「総合特区」

①国際戦略総合特区

経済成長のエンジンとなる
産業・機能の
集積拠点の形成

②地域活性化総合特区

地域資源を最大限活用した
地域活性化の取組による
地域力の向上

2011年12月

「つくば国際戦略総合特区」
を含め全国で7地域が
国際戦略総合特区の
指定を受ける



(指定書授与式)

特例措置・支援措置

(1) 規制・制度の特例措置

- 規制の特例を自己責任の下、区域限定で実施
- 法令等の特例措置+政省令で定めている事項を条例で定められる

(2) 税制上の支援措置

国際競争力強化のための法人税の軽減 ⇒ 国際競争力のある産業・機能集積拠点整備

(3) 財政上の支援措置

(4) 金融上の支援措置

つくば国際戦略総合特区のポイント

つくば国際戦略総合特区では、

◆総合特区で講じられる「規制緩和」や「税制上の特例措置」等を効果的に活用し、

- (1)「つくばを変える新しい産学官連携システム」の構築と
- (2)「4つの先導的プロジェクト」に取り組み、

◆5年以内に目に見える成果を上げることにより、
ライフイノベーション・グリーンイノベーション分野で、我が国の成長・
発展に貢献する。

◆「4つの先導的プロジェクト」の推進を図りつつ、そこで生じた課題・
問題点を「つくばを変える新しい産学官連携システム」の構築にフィー
ドバックすることにより、つくばの科学技術から新事業・新産業が絶え
間なく生み出されていく、新しいシステムを確立し、今後「5年間で5つ
以上の新しい産学官連携プロジェクト」を創出する。

つくば国際戦略総合特区

4つの先導的プロジェクト

ライフイノベーション

Project①：次世代がん治療(BNCT)の開発実用化

- ◆ 画期的次世代がん治療(BNCT)の実用化
- ◆ 国際標準化し、医療関連産業の国際展開

【参画機関】

筑波大学、県立医療大学、高エネルギー加速器研究機構、日本原子力研究機構、企業、茨城県



治療前

治療後

Project②：生活支援ロボットの実用化

- ◆ 生活支援ロボットの安全性評価基準を確立
- ◆ 国際標準化により、ロボット産業の国際競争力を牽引

【参画機関】

産業技術総合研究所、日本自動車研究所、筑波大学、企業等



搭乗型

装着型ロボット

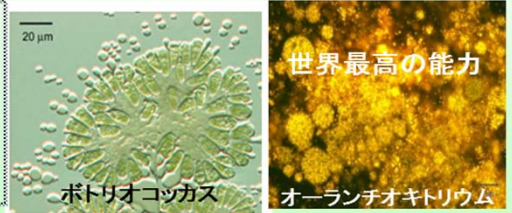
グリーンイノベーション

Project③：藻類バイオマスエネルギーの実用化

- ◆ 石油代替燃料として期待の藻類バイオマスの実用化
- ◆ 世界的エネルギー問題の解決に貢献

【参画機関】

筑波大学、藻類コンソシアム企業、つくば市



ボトリオコッカス

世界最高の能力

オーランテオキトリウム

Project④：TIA-nano 世界的ナノテク拠点の形成

- ◆ 国際競争力ある世界的ナノテク拠点を構築。
- ◆ 画期的な省エネ機器等の開発や人材育成を推進。

【参画機関】

産業技術総合研究所、物質・材料研究機構、筑波大学、高エネルギー加速器研究機構、企業等

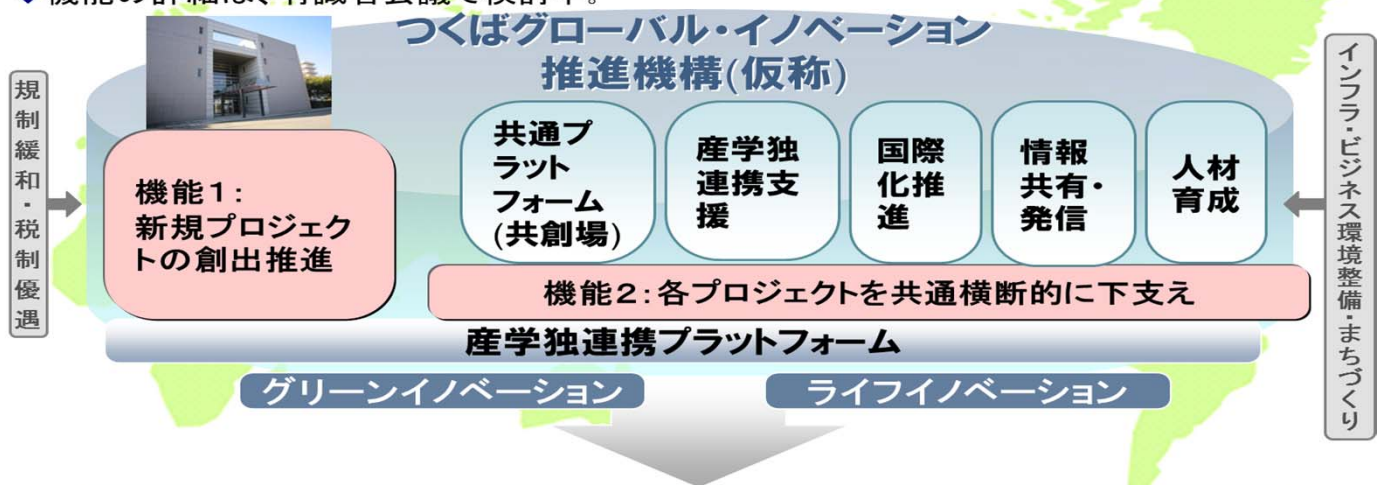


スーパークリーンルーム

炭化ケイ素

つくばグローバル・イノベーション推進機構(仮称)

- ◆ 昨年7月、筑波大学の学内組織として、つくばグローバル・イノベーション推進機構を茨城県、つくば市、筑波研究学園都市交流協議会の協力の下、先行的に設置。
- ◆ 特区の4つの先導的プロジェクトの支援活動を行う他、新たなプロジェクトを創出するための連携活動を実施。
- ◆ 機能の詳細は、有識者会議で検討中。



オープンイノベーション型研究開発プロジェクトを展開し、国際競争力を強化